

令和 4 年度 学力調査結果の分析

【国・都・市調査】  
清瀬市立清瀬第五中学校

教科	学年	観点別結果の分析	領域別結果の分析
国語	第 2 学年	3 観点ともに市平均を上回り、全国平均とほぼ同じである。「思考・判断・表現」の正答率が若干低く、その観点の問題が無解答の割合が高い。記述問題はあきらめてしまう生徒が多いので、読み取りのポイントをつかんで自分の考えをまとめる演習を繰り返し、自信をもたせ粘り強く取り組む姿勢を身につけさせる。	「情報の扱いに関する事項」「読むこと」の正答率が全国よりも高く、特に説明的文章の読解力が定着している。それに対し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率が低い。話題や展開を捉えながら話を聞き取り、自分の考えを相手に明確に伝える構成などの理解が弱いことがわかる。授業計画の中で、重点を置いて指導していく。
	第 3 学年	2 観点ともに都・全国平均を上回った。2 観点を比較すると正答率に偏りはなく、観点ごとの課題よりも具体的な領域の中で課題があるように感じる。2 観点両方の力が評価された 2 問に関しては無回答率が平均より低い。このことから答えを導き出そうとした生徒が多かったことがうかがえる。	全国平均は全て上回ったが、都平均では「話すこと・聞くこと」「読むこと」が僅かに下回った。結果から以下 3 点のことに今後取り組みたい。①自分の考えを文章化するだけでなく、相手を意識して考えを説明する機会を増やす。②漢字を書く問題の正答率が低く、無回答も多かったため漢字小テストを実施し定着を図る。③文章では登場人物の心情理解が苦手な生徒がいるため、場面展開と合わせて捉えられるように授業で取り組む。
数学	第 2 学年	知識・技能の正解率は全国平均より高く、この状態を維持し続けるには、主体的に取り組む態度を今よりあげていく必要があると思われる。追求して深める授業展開が必要。また、知識はあっても条件の整理（つかみ）ができない傾向があると考えられる。クラスによる差が大きく、主体的に取り組む態度で 10 点、思考・判断・表現で、12 点以上もひらくことは、学年全体でも課題として捉えたい。	数と式は、正負の数の計算を得意としている生徒が多く正解率が高いが、「立式」は関係が捉えにくくできていない。図形分野で基礎的な内容は理解しているが、「作図」は見通しが立てにくく正解率が下がる。関数は、手順が見えているものや方法がわかっているものは割とできている。「説明」の記述ができていない。無回答で、説明には手がつかない状態の生徒が見られる。考えを述べたりまとめたりする時間をとるようにしたい。
	第 3 学年	平均正答数は全国平均を上回り、都の平均と同じであるが、観点①の正答率が比較的 low、平均的な知識・技能を身に付けている生徒の割合が多い反面、問題を解くのに必要な知識を正確に理解できていない生徒も多いため正答率の山が 2 つになっていると考えられる。関数と図形の論証に関する力が不十分と考えられるので理解させるように復習問題を取り組ませるようにする。	関数分野の表やグラフを読み取り、そのことを使って考察することができていないので、補充問題を通して身に付けさせていくようにする。また、筋道を立てて事柄が成り立つ理由を論理的に組み立てて書く力が不十分なので論証に関する問題を多く取り組ませて、自分の考えを論理的に書く力を身に付けさせるようにしていくようにする。

理科	第3学年	<p>観点別の正答率は、都（全国）の平均をすべて上回っているが、知識・技能の観点で選択式の問題で少し正答率が低くなっている。既習事項の復習が足りていない様子も伺えることが多いので、普段から少しずつ復習するような課題を取り組ませ、その上で既習事項の定着を図るような小テスト等を行い確認することが必要である。</p>	<p>分野としては、都（全国）の平均より生物・地学分野の正答率が高く、物理・化学分野の正答率が低かった。物理・化学分野に関しては、思考力が問われる部分が多いため、苦手意識が高い生徒が少なくない。また、普段の生活と理科の学習を関連付けて考えることが出来ていない部分も多いため、普段の生活と既習事項との関連を意識させるような復習の時間を定期的に設けるようにする。（新聞やテレビ番組、動画等を用いた学習）</p>
	学年	結果の分析	
意識調査	第1学年	<p>「教科の内容はどれくらい分かるか、どれくらい得意か」という設問に対し、「わかる」「どちらかといえばわかる」と答えた生徒が、ほぼ全ての教科で、東京都の割合より高い。この状態を維持していくためにこれからも授業研究を進めていく。生徒の学習の進め方については、「繰り返し練習をしている」割合が少ないので、反復することの大切さを指導していく。</p>	
	第2学年	<p>しっかり考えられるようにしたいと最後まであきらめない姿勢をもつ生徒の割合が高い。一方で、家庭での学習時間が少ない傾向にあることは課題である。授業内で自分が考えたことを他の人に説明する時間が少ないと感じている生徒が多いので、授業の工夫改善が求められる。また、数学英語の少人数に分かれての授業をよいと思う生徒の割合が低く、見直す必要がある。</p>	
	第3学年	<p>教科ごとの理解の程度や得意かどうかを見ていくと、理科が東京都の割合と比べて低い傾向があることがわかる。あまり時間はないが、もう少し自信を持たせるような授業展開を考えたい。学習の動機については、他の項目と比べて人に負けたくないという思いが強い部分があることがわかる。学習習慣は概ね東京都の値に近く、漢字等をくり返し練習し、ワーク等のミスを見直すなどは自分達でやる習慣がついていることが分かった。</p>	